

# 職能科通信 13号

2012年2月発行 <http://www.kanagawa-rehab.or.jp>

〒243-0121  
神奈川県厚木市七沢 516  
神奈川県リハビリテーション病院  
職能科  
TEL&FAX 046-249-2575

## 「重度身体障がい者の在宅就労支援」研修会報告

今回は、平成23年11月12日（土）に開催された研修会のご報告をいたします。

神奈川県リハビリテーション支援センター主催による研修であり、職能科も講師、スタッフとして研修会に携わっています。例年は、身体障がい者の就労支援と題し行っていますが、今回は、初めての試みとして重度身体障がい者の在宅就労支援にスポットを当てた内容で実施しました。このテーマに果たして何名の方がお集まり頂けるのか心配しておりましたが、当日は、定員をはるかに超える50名の方のご出席を頂き、盛大に研修会を行うことが出来ました。

### 一研修会の内容一

はじめに職能科泉から「重度身体障がい者の就労支援」の概要説明があり、続いて「重度身体障がい者の理解」ということで、当病院リハビリテーション科伊藤医師より障がいや疾患の説明および在宅で仕事をするうえでの健康管理面についてお話がありました。その後、PT科からは「車いすシーティング」に関して、医療福祉総合相談室より「生活を支える社会支援」として社会資源や制度、社会保障などの説明、OT科より「パソコン操作に対する工学支援」に関して事例を交えながら紹介がありました。午後は、主に「在宅就労支援の実際」ということで職能科での支援事例を中心に今野、松元が講義を行いました。

そして、今回の研修会で何といても反響の大きかったのは、現在クオールアシスト(株)で在宅勤務をされている村上真一氏をお招きしての講義でした。前半では起床から朝食、入浴、更衣、訪問リハ、車イス移乗、仕事風景に至る日課を撮影したビデオを御覧頂き、後半でご自身の経験をもとに、在宅雇用についてお話頂きました。当事者から語られる言葉に会場一同が聞き入るといった状況で、その素晴らしさは、終了後の大きな拍手が物語っていました。

神奈川県リハビリテーション支援センターで主催

される研修会は、リハ病院の専門性を活かしたテーマで年間約30件弱開催されております。詳しくはHPを御覧ください。(今野 政美)



写真1 講師の村上氏



写真2 講義風景

# 在宅雇用に向けた求職活動のチーム支援！（報告）

本年1月、当科利用者Yさんの在宅雇用への求職活動に向けて、ハローワークでのカンファランスの概要をご報告します。

Yさんは神奈川県障害者就職促進委託訓練「トライ」eラーニングコースを受講され(写真3)、その後当科での在宅就労支援プログラムを実施し(写真4・5)、NPO障がい者就業・雇用支援センター(東京都千代田区、理事長：秦政)と支援連携しました(写真6)。

しかし、在宅勤務での求人はほとんど無く、県内に在宅雇用支援の専門機関もないことから、下記のメンバーがハローワーク

港北に集結し、Yさんをモデルケースとした重度身体障がい者への在宅雇用支援のチームを組み、役割分担を行ないました。併せて、このような取り組みが蓄積された段階で、就労支援機関の育成に向けて取りまとめていくこととなりました。



写真3 トライeラーニング



写真4 KILC訪問



写真5 在宅勤務者宅訪問



写真6 NPO障がい者就業・雇用支援センター

神奈川県労働局職業安定部職業対策課	地方障害者雇用担当官	全体把握
ハローワーク港北	雇用指導官	事業所へ在宅雇用のアプローチ・アナウンス
ハローワーク港北 専門援助部門	統括	在宅雇用求人をご本人宅へFAX情報提供
障がい者就業・雇用支援センター	三浦理事・事務局長	事業所へ在宅雇用の専門アドバイス
神奈川県リハ病院 職能科	松元	事業所へ障がい・生活特性の専門アドバイス

(松元 健)

## 平成23年度就労支援の実績

職場内リハビリテーション実施人数	
2011年11月、12月の人数	18名
2011年4月からの累計人数	19名

就職・復職者の人数		
2011年11月、12月の就職・復職者	新規就労	4名
	復職	3名
2011年4月からの累計	新規就労	9名
	復職	21名

## 職能科の訓練⑦ やってみよう！パソコンデータ入力の活用

職能科では、「やってみよう！パソコンデータ入力」というソフトを活用して、パソコン訓練を行っています。障害者職業総合センターで開発された当ソフトは、アンケート入力作業(写真7)や顧客伝票修正作業などからなっており、会社での実践に即した訓練課題と言えます。情報を正確に入力したり、修正箇所を発見したりするためには、集中力を持続し、注意のフォーカスをすばやく切り替えていくことが求められます。

そのため、高次脳機能障がいの特性である注意障がいや易疲労性の影響が作業成果に反映されやすい課題です。作業を通して、自らの障がいに気づき、対処方法が検討できるよう支援を進めています。(小林 國明)

障害者職業総合センター「やってみよう！パソコンデータ入力」

ダウンロード先 [http://www.nivr.jeed.or.jp/research/kyouzai/22\\_nyuryoku.html](http://www.nivr.jeed.or.jp/research/kyouzai/22_nyuryoku.html)



写真7 アンケート入力